

1年生 いのちの教育講演会 I

「命の尊さ」

講師 福島県骨髄バンク推進連絡協議会運営委員

志賀としえさん



講演後の6月5日には、26年前わずか7歳で白血病のためにこの世を去った丹後光祐君の実話を元に作られた「いのちのあさがお」の映画も鑑賞しました。

丹後光祐君のお母さんが大事に育てた「いのちのあさがお」は26年間引き継がれ、5年前からこの植田東中でも先輩たちが育て、光祐君の生きた証をつないできました。今年も6月6日には、保健室前の花壇に1年生全員が一人一粒、この「いのちのあさがお」の種まきをしました。



そして、今回種まきをするために、花壇を掘り起こし、種まきができる状態に整えてくれたのは、2年生の薄井涼太君と渡辺蒼太君の二人です。

1年生の皆さんはそんな先輩たちの影の支えがあってこそ種まきことができました。二人の先輩への感謝を忘れず、今度は皆さんがすてきな花を咲かせてください。この植田東中でも「いのちのあさがお」とともに「思いやりの心」がすくすくと育つことを願っています。

6月4日(月)5校時、元白血病患者の志賀としえさんを講師にお招きし、1年生を対象にいのちの教育講演会を開催しました。

20代だった志賀さんを襲った白血病との闘い。善意の第三者から提供された骨髄を移植し、命をつなぎとめることができたこと。病気との闘いの中から、笑顔でいること、苦しみを乗り越えたことが自分の強さになったことなど、貴重なお話をお聞きしました。



「命の尊さ」を聴いて(感想文)より

○今、私たちが学校に来られて、元気に遊んだり、笑ったりできるのは当たり前のように見えて幸せなことです。毎日が「キセキ」の連続です。私はアサガオをちゃんと育て、少しでも命に関われる人になり、生きていることのありがたみを感じて過ごしていきたいです。

○たとえ病気になったとしても、つらいことがあっても、前を向いて頑張っていこうと思いました。そして周りの人たちのためにできることを探し、行動にうつしたいです。

○自分自身が笑顔でいることの大切さや自分を信じて行動することなど、自分の帰りを待っていてくれる家族や親戚のことを常に考え、これからの人生を生きていきたいと思います。